

I. はじめに

パラオでの生活は、南国の開放的なイメージと親日的な国柄から、つい油断が生じやすい環境にあります。実際、政治的には安定しており、国際テロや誘拐事件などは発生していないため、これまで「治安の良い国」と評価されてきました。しかし、近年、青少年の麻薬使用・アルコールの暴飲による犯罪率の上昇、在留外国人の増加等に伴い、特に外国人を狙った、暴行・傷害事件、盗難、空き巣、車上盗難等の犯罪被害が多発しているだけでなく、殺人・強盗、強姦などの凶悪犯罪も発生しています。

この「安全の手引き」では、パラオに在留する日本人の方一人ひとりが、当地の治安状況や防犯上注意すべきポイントを理解し、日頃より心がけておきたいことを簡潔にまとめています。皆様が安心して快適な日常生活を送られる上で、何らかの参考になれば幸いです。

II. 防犯

1. 防犯の基本的な心構え

海外においては、言語・風俗・習慣・社会制度の違いから、日本に居住している時以上に安全に注意を払う必要があります。我が家、或いは自分だけは大丈夫と思うことが犯罪者の付け目です。常に「備えあれば憂い無し」最低限の防犯対策を心がけましょう。事故や事件を未然に防ぐためにも「自分の身は自分で守る」の心構えが大切です。

2. パラオの犯罪傾向

パラオは大別するとコロール島、バベルダオブ島、カヤンゲル島、ペリリュー島、アンガウル島及びその他離島に分かれており、そのいずれの地域でも近年はテロ又は身代金目当ての誘拐事件は発生していません。しかし、泥酔者や薬物中毒による暴行・傷害、強盗・殺人など凶悪犯罪が増加傾向にあり、2012年2月には在留邦人が殺害されるという事件が発生しました。また、車上盗難や外国人を狙った家屋侵入、空き巣などの被害は後を絶ちません。

特に週末・夜間の市内のカラオケパー等においては、酒気帯びから喧嘩になるケースが多く、街中でも通行人に絡んだり金銭をせびることもあるので、そのような場所に近づかないか、万が一巻き込まれても、相手の感情を高ぶらせるような言動を避けるべきです。

3. 防犯のための具体的注意事項

(1) 住居

- 住居を決定する際は、周辺の環境や犯罪発生状況といった治安情報を考慮に入れる。住居は、玄関・窓の施錠、錠格子の設置等、防犯がきちんとしているか、また不審者が侵入可能な箇所はないかなど確認する。
- 施錠は常に習慣づける。特に長期間留守にする際は屋内に更に施錠可能な部屋を設けて貴重品を保管したり、夜間はタイマーを利用して、一定時間電気を点灯させ在宅のように見せる等の工夫をする。

- 現金及び貴重品類、パソコン等のOA器機類は、日頃より人目に触れない場所に収納する。

(2) 外出時

- 旅券(パスポート)は日常携行せず、家の中の施錠可能な場所に保管し、必要に応じてコピーを携行する。
- 服装は、極度に人目を引くようなものは避ける。
- 自動車内には、座席等外から見える場所にハンドバッグ等を置かないよう気をつける。
- 地元の人達の誇りを傷つけたり、争いを招く結果となるような言動は努めて避ける。
- 夜間は単独で人通りの少ないところに出歩かない。パラオでは街灯のない暗い道が多く、飲酒運転車も走行しているため、事故に巻き込まれないよう夜間の運転は特に注意する。
- 野犬や放し飼いの犬が多いので、咬まれないよう気を付ける。

4. 被害にあった場合の対策

- 必ず警察(電話911)に届け出る。必要であればポリスレポートを発行してもらう。
- 支援要請が可能な海外旅行保険会社等に連絡する。
- 必要な場合は日本大使館に報告し、援護を求める。

5. 夜間外出制限

パラオには外出制限があり、コロール州においては18歳未満の未成年は法定代理人の管理責任の下、21歳以上の同行者がいる場合を除き、午後10時から翌朝6時まで外出が禁止されています。

III. 医療・衛生事情

パラオの年間平均温度は摂氏28度、平均湿度は81%と高温多湿で年間を通じて雨が多いため、細菌やカビなどが繁殖しやすく、食中毒やアメーバ赤痢による腹痛など消化器系の疾病が起こり易い環境にあります。

デング熱が流行することがあるので、情報収集と対策に留意しておく必要があります。デング熱には予防接種も予防薬もありませんので、蚊に刺されないようにすることが唯一の予防方法です。肌の露出を避け、防蚊剤を使用するなど、感染の予防に努めてください。

コロール市内には国立病院がありますが、パラオにおける医療レベルは十分とは言えず、大きな怪我や病気で専門的な治療が必要な場合は国外へ緊急搬送が必要となる場合があります。その際には診療費、入院費、緊急移送費など多額の費用が必要となります。事故、病気に備え自己の負担を軽減するためにも海外旅行保険への加入をお勧めします。

また、輸血の際は、血液のストックが少ないため、同じ血液型のボランティアを募って採血する場合があります。交通事故や出産の

際には、血液が不足するという事態も発生しますので、交通事故を起こさない、巻き込まれないといった注意が必要です。日頃より健康上心がけなければならないこととして、生水は飲まない、脱水症にならないよう水分補給を充分する等を心掛けて下さい。また紫外線が日本の7~8倍と言われているので、屋間の外出時は帽子、サングラスの着用等の日焼け対策が必要です。

なお、ここ数年来、日本の医師の勧めに従い、パラオで病気療養のため数ヶ月にわたり付き添い無しで長期滞在・転地療養する邦人の例が増加しています。中には、言葉の不自由な当地事情の不理解によりトラブルに巻き込まれた例があります。医療施設が不十分で専門医もいないパラオは病気の転地療養としては必ずしも適当な土地とは言えない状況ですので、ご注意願います。

IV. 海難事故

パラオは、スキューバダイビング、シュノーケリング、サーフィン、釣りなどマリンスポーツが観光のメインとなっており、2014年統計では年間37,986人の日本人観光客がパラオを訪れています。

パラオ国立病院には、スキューバダイビングの際引きおこる潜水病などに対応する減圧チャンバーの設備はありますが、担当医師の有無、メンテナンスの状況等によって使用状況に影響があります。また医療費は高額であり、その他の医療設備も日本のように完備されたものは期待できません。2012年には邦人旅行者がサーフィン事故で1名、ダイビング事故で1名それぞれ死亡しています。マリンスポーツをされる方は、悪天候や海がしけている時などは自らの技術を過信することなく、当局の勧告や現地の人々の声に耳を傾け慎重に行動し、また自分の体調や技術以上に無理をせず、安全なマリンスポーツを心がけることをお勧めします。

V. 交通事情と事故対策

1. 交通事情と運転時の留意事項

パラオでは軽自動車、セダン、4WDなどの日本の中古車(右ハンドル)が多く走っています。パラオ国際空港からコロール州内への主要道路及び、バベルダオブ島を周回するコンパクト道路はよく整備されていますが、脇道は未舗装路のところも多く、4WD以外での車両では走行が困難な道路もあります。車道は右側通行となっており、運転技術やマナーは各人各様です。特に週末の夜間には飲酒運転や、スピードの出し過ぎにより、死亡につながる事故も発生しています。

また、当地では歩行者保護の設備(歩道、歩道橋、信号付きの横断歩道、ガードレール等)が整備されておらず、歩行者への注意も必要です。夜間は地元警察のパトカーによる巡回が行われ、違法運転の取り締まりを行っています。

- (1) 車を運転する際には以下のようなことに注意して下さい。
 - 一般的にゆっくりは走行していますが全区域、制限速度は25マイル(40km)となっています。また、道路が片側一車線で追い越しは禁止となっている場所が多いので注意が必要です。スピードの出しすぎに気を付けて下さい。

- カーブ時に、中央線をはみ出し、対向車線内を走行する車が多いので注意が必要です。

- ドアはきちんと施錠すること。車自体の盗難もありますが、備え付けのカーオーディオやタイヤの盗難等もあるため、人気の少ないところや暗い場所での長時間の駐車はできるだけ避けて下さい。

- 多くの自動車は保険に加入していないため、相手の経済状況によってはぶつけられ損になる可能性があります。事故の際は、その大小にかかわらず警察を呼び、自身の車は、自動車保険に加入することをお勧めします。

VI. 投資活動

パラオでは観光関連ビジネスを中心とした多くの日系企業が進出しています。事業を始めるに当たっては外国投資委員会(Foreign Investment Board)事務所にて手続きを行い、国内法令など入手し、パラオのビジネス制度をきちんと把握することが大切です。土地所有権などトラブルが発生するケースもありますので、事前の調査を慎重に行ってください。

VII. 緊急時対応マニュアル

1. 平素の準備と心構え

(1) 在留届の提出

パラオに居住を定めて3か月以上滞りされる場合には、大使館に在留届を提出することが義務付けられています。パラオで発生した天災や重大な事故・事件で邦人の方が被害を受けた場合、在留届によりいち早い安否確認が行え、事故に遭われた方の連絡先を調査して必要な救援措置が行えます。また届出内容(住所、電話番号、電子メールアドレス)に変更ある場合及び帰国の際にはその旨ご連絡下さい。

(2) 連絡体制の整備

自然災害に備えて、家族や企業等で緊急連絡網を作成し、日頃からその連絡方法について決めておき、お互い所在を明確にするよう心がけましょう。

(3) 避難場所

災害発生時には被害状況を把握するとともに、正確な情報の収集に努め、危険な場所には近づかないようにして下さい。避難場所については、常日頃からその場所を検討しておくとともに、いくつかのケースを想定し、状況に応じて一時避難場所を検討しておくようにしましょう。なお、災害時は車両を使用することができないことも十分考えられますので、徒歩による避難場所へのルートも確認しておきましょう。

緊急時に備えてのチェックリスト

(1) 旅券

旅券は常に残存期間を確認するよう心がけて下さい。
残存有効期間が1年未満になりますと旅券の切替手続きができますので、早めに手続きを行なうようにして下さい。

(2) 現金、貴重品、預金通帳等の有価証券、クレジットカード現金、貴重品等は、旅券と同様にすぐに持ち出せるように保管しておいてください。

(3) 携行品の準備

避難場所への待避を必要とする事態を考え、上記(1)、(2)に加え、次の携行品を備えておき、必要なときにすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

- 衣類・着替え
- 防水・防寒着
- 履物(行動に便利で靴底の厚い頑丈なもの)
- 洗面具(タオル・歯磨きセット・石鹸等)
- 寝袋
- 非常用食料等
米、調味料、缶詰類、インスタント食品、粉ミルク等の保存食料及びミネラルウォーター等
- 医薬品等
家庭用常備薬の他、常用薬、外傷薬、消毒用石鹸衛生綿、包帯等
- ラジオ
現地放送の他、NHK国際放送(ラジオジャパン)、BBC等の短波放送も受信できるラジオ、
- その他
懐中電灯、予備電池、ライター、ろうそく、マッチ、ナイフ、缶切り、栓抜き、使い捨て食器、割り箸、簡単な炊事用具、ヘルメット

VIII. 生活上必要な電話番号

1. パラオ警察・消防・救急車(緊急時)..... 911
 - (1) 消防・救急車.....488-1411
 - (2) バトロール.....488-1422
 - (3) 海上救護・捜索.....488-5206
2. 病院
 - (1) ベラウ国立病院.....488-2552
.....488-2558
(24時間体制の救急治療室)
 - (2) ベラウ・メディカル・クリニック.....488-2687
診察時間：月～金曜
午前8時から午前11時まで
午後5時から午後8時まで
3. 入国管理局(滞在査証)..... 488-2498
4. パラオ観光局(PVA)..... 488-2793
5. 航空会社
 - (1) ユナイテッド航空.....488-2448
 - (2) デルタ航空.....488-2255
587-3353
 - (3) アシアナ航空.....587-2250
587-2258
 - (4) 中華航空.....488-8888
(パレイシアホテル内)
6. ラジオ放送
 - Eco Paradise 87.9
 - PWF 89.9
 - WWFM 89.5
 - WPKR FM 87.9
 - NHK国際放送(短波ラジオ)
最新の周波数等は、NHKのウェブサイトから入手できます。
<http://www.nhk.or.jp/nhkworld/japanese/>
7. 在パラオ日本国大使館..... 488-6455
..... 488-6456
 - (1) 開館時間 月曜日～金曜日、午前8時30分～正午
午後1時～午後5時15分
 - (2) 領事窓口 月曜日～金曜日 午前9時～正午
午後1時～午後4時30分
 - (3) 執務時間外、祝祭日 領事担当携帯.....775-6455
775-6456
 - (4) ホームページ <http://www.palau.emb-japan.go.jp>

Memo

パラオ生活

安全の手引き

平成27年2月
在パラオ日本国大使館